

【恩恵を受け渡すために】

福岡県 北九州市立洞北中学校 二年 若杉 武留

春休みに、家族と京都を旅行した。残念なことに雨が降り、傘を差しながら歩くことになった。清水寺の桜は咲いていたが、今年は桜が咲くのが遅いという。この旅行は、「雨が降っていなければ本当に良かったのに。」と何度も思った。しかし、建物の中であれば雨でじめじめとすることがないため、南禅寺の方丈庭園は落ち着いて見ることが出来た。

方丈庭園は、江戸時代初期の代表的な枯山水庭園で、水を使わず白い砂で水の波や波紋を表現していた。枯山水庭園とは、水を一切使わず砂や石だけで山や水の景色を表現した日本の庭園のことである。しかし、平安時代の貴族たちは、庭園の中心内池に舟を浮かべ、そこから季節ごとに移りゆく景色を楽しんでいた。ここで一つ疑問が出てきた。日本人は川のせせらぎの音をきれいと思いい、その心は昔から変わらないものである。しかし、枯山水では水を使わない。これには理由がある。一つ目の理由は、仏教では水が清浄を意味するが、禅宗では白砂が清浄を意味するからだ。自分の精神と向き合い続け、無の境地へと至ることが禅宗の思想である。あふれる音から離れて自分を見つめる時を過ごすことが出来る。二つ目の理由は、室町時代後期、応仁の乱の戦火で水を引くことが難しくなったからである。

一方、南禅寺の境内には水路閣という建物がある。一八八八年（明治二十年）に完成した。京都と琵琶湖を繋ぐ疎水の水路橋だ。この建造物は、京都御所で火災が起きた際に防火用の水を送るために造られた。琵琶湖から取った水を、高所にある貯水池まで汲み上げるための施設である。わざわざ琵琶湖の水を使っていた理由は、この地域に水が少なかつたからである。水路閣は、水の少ない地域に水を通す疎水の役割を持っていることが分かった。水の恩恵は雨や疎水によって土地を潤したり、川のような流れに乗って物の運搬ができたことだ。このように人間が生活の上で便利に利用する。

また、海のような大量の水があれば廃棄物や汚染物質の分解と排除ができる。養分を運んだり、不用品を排出したり、生活の中で循環している。昔から、人類は水の恩恵を受けるために、川の近くに文明を作った。古生代に生物種が爆発的に増えたのも、海で生き物が生まれたからだ。昔から水は大切な役割を持ち続けてきた。

未来ではどうなっていくのだろう。地球温暖化や人口増加によって、二〇五〇年には世界で五十億人が水不足になるといわれている。つまり、世界人口が約九十七億人になるといわれているので、約半数の人が水不足にさらされることになる。こんなに多くの人が水の恩恵を受けられなくなると、大変なことが予想される。人間の体重の約六十から七十パーセントは水でできている。生命を維持するために水は必要不可欠なのである。よって、水の恩恵を享受し続けるために何をすべきか考えることは、未来の人類への助けとなるだろう。手を洗うときはこまめに水を止めたり、シャワーの水を流しっ放しにしない。もし、一人が節水で一〇〇ミリリットルの水を使わなければ、日本の人口約一億二千万人分と仮定して、約一千二百万リットルの節水を行うことができる。このように、全員が少し気を付けるだけで、大量の水を節水できる。

毎日、蛇口をひねればきれいな水が出てくる。文明が発展するために、川の近くから水をひき、疎水をしてきた歴史がある。今自分たちが受けている恩恵は、過去の人類が築いてきた文明のおかげである。これを未来の人類に受け渡すために、何をすべきか。中学生の自分に大きなことは出来ないが、節水という小さな努力をするべきだと思った。